

会員各位へ 会員増強運動へのご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます

平素は、当会の事業運営に格別のご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当会では会員各位のご理解、ご協力を賜りつつ、鋭意会員増強運動に取り組んでおります。

昨年度は年度末の会員数が、対前年度比207社減の2,790社、加入率30.4%となりましたが、その後昨年12月末には、会員数が対前年度首比17件増の2,807件、加入率30.6%と微増に転じることができました。

これもひとえに会員各位のご尽力の賜と感謝申し上げます。

改めて申し上げるまでもなく、当会が公益社団法人として中区の企業・地域社会のさらなる発展に貢献してまいりますためには、法人会活動のバロメーターである会員数の維持・拡大による組織強化が不可欠になっております。

事務局では、本年度も引き続き新入会員の確保や退会防止に努め会員数の増加を目指して会員増強運動に取り組んでおります。

つきましては、会員各位には引き続き会員増強運動の実施に格別のご理解を賜り、会員勧誘の候補先をご紹介いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具



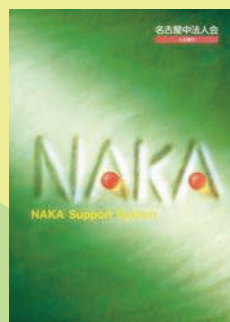
公益社団法人 名古屋中法人会
会長 岡谷 篤一

《会員勧誘候補先のご連絡について》

会員勧誘候補先に関しましては、下記の用紙を事務局宛のFAX番号にてご連絡くださいますようお願い申し上げます。

公益社団法人 名古屋中法人会 事務局
名古屋市中区栄四丁目3-26 昭和ビル3階 FAX 052-242-9429 電話 052-242-9427

法人会は社長の“やる気”をサポートします。



《法人会の事業活動とメリット》

- ◎税のオピニオンリーダーとしての税制提言活動
- ◎最新の地域・世界経済などの講演会によって、自社の経営戦略を図る
- ◎環境や福祉など、地域に密着した社会貢献活動による企業ブランドの向上を目指す
- ◎さまざまな異業種の経営者と出会い、ビジネスチャンスにつながる交流会
- ◎法人会独自のお得な各種の福利厚生制度で、自社の企業リスクをカバーする
- ◎税知識が身につく研修会や子どもたちへの租税教育活動

これらのほかに、法人会は様々な活動で企業を支援し、国と地域の発展に努めています。ぜひ、みなさんの仲間を誘って、税の知識を活かし、一歩先の経営を目指しましょう！

会員増強推進運動実施中!!



会員勧誘候補先 通知書

貴社・団体名		
ご担当者	役職名	お名前
	勧誘候補先について、お問い合わせさせていただくことがございますのでご記入ください。	
ご連絡先	電話	FAX

ご紹介いただける勧誘候補先

会社・団体名		
所在地	中区以外の勧誘候補先も受け付けております。	
連絡先窓口	役職名	お名前
連絡先電話番号		

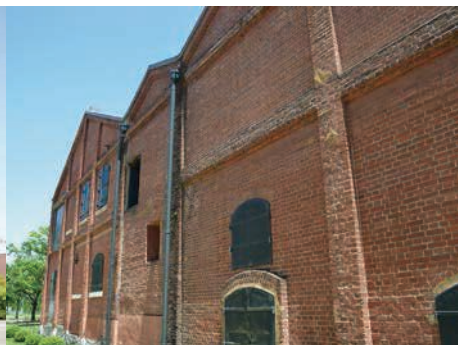
FAX 052-242-9429

公益社団法人 名古屋中法人会事務局 行

ノリタケカンパニーリミテド



赤レンガ造りの建物は、日露戦争が始まった明治37年（1904）に建築された日本陶器合名会社の最初の工場です。



日本で初めて完成したディナーセット
「セダン」 大正3年（1914）



シリーズ
こだわり見学記

71



陶磁器用石膏型

文化と出会い、森に想う。

ノリタケの森

名古屋市西区則武新町の「ノリタケの森」は、
四季豊かな自然と日本の洋食器の歴史を観ることができます。



ノリタケミュージアム



「フランク・ロイド・ライト」デザインによる帝国ホテル用食器。大正12年（1923）に完成した帝国ホテルの新館（ライト館）レストラン用にライトによってデザインされたもので、建物の内装に使われたステンドグラスの意匠を取り入れています。その後、多少のデザイン変更を加えたものの昭和42年（1967）にライト館が閉鎖されるまで使い続けられました。



明治37年（1904）の日本陶器（現 ノリタケカンパニー）創立以降、工業製品として作られたディナーウェアを中心に展示。時とともに移り変わるノリタケデザインの変遷を見ることができます。



「青い目の人形」ビスクドール（陶磁器製人形）
米国で販売していた頭部や手が陶器で作られた人形です。森村組が設立した「日本玩具株式会社」で生産されました。米国の陶磁器製の人形は主にドイツからの輸入で占められていましたが、第一次世界大戦の勃発により製品の供給が途絶えました。そのため、モリムラブラザーズからの進言を受け人形の製造に着手。大戦終了でドイツ製品が復活するまでの間、製造販売していました。昭和12年（1927）、米国から日本の子どもたちに贈られた「青い目の人形」の中にも、モリムラドールがあります。



ラスター彩
鳥付トーストスタンド
大正9年～昭和5年
（1920～1930）



ニューヨーク・ブロードウェイ541番地の
モリムラブラザーズ 明治17年～23年（1884～1890）



クラフトセンター



煙突の根元には窯から排出される煙を煙突に送る煙道跡



初期の工場の基礎に使われた
レンガに、ノリタケの森基金の
賛同者の名を焼き上げた皿



創業時の丸窯を伝える単独窯





植物から学んで「描く」^{えが}

日本画家

そり ゆうき
楚里 勇己 氏

取材日時／平成30年4月2日(月) 10:00~11:30 取材場所／カトー機械株式会社
き き て／武藤俊明・加藤幸博・岩田加津子・清水正彌



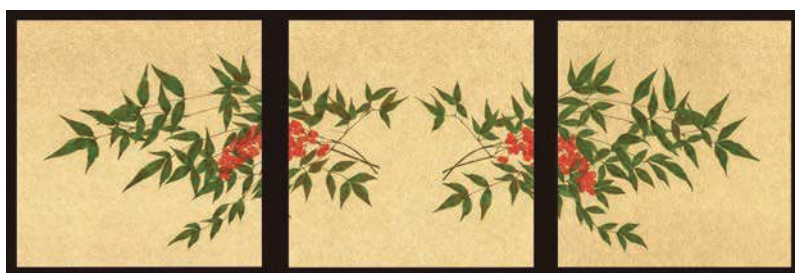
楚里 勇己個展 平成30年3月30日 名古屋市千種区ジルダール・ギャラリーにて



Sori



クロシロノツナガリ



ナンヲテンズ



ミラ・ショーン×楚里 勇己

作品写真提供 ジルダール・ギャラリー



楚里 勇己氏の作品写真を提供した(株)ジルダールの田口あい氏（右）

恩師からの勧めで東京藝大へ

——お生まれは愛知県のどちらですか。

長久手市です。

——少年時代の思い出と絵に興味をもったきっかけをお聞かせください。

小さいころから絵は好きでした。通っていた保育園が、昼食後に子どもたちに1日1枚藁半紙に絵を描かせる保育園だったことと、父が日本画家でしたので、その影響もあったと思います。また祖父母が材木の工場で住み込みで働いていましたので、よく木材チップや木屑で遊んでいました。絵を描いたりモノをつくるのが自然にあった環境で育ちました。

——日本画家としてやっていこうと決意されたきっかけは？

中学2年生の頃から、作り手として何か発表する人間になりたいと思って、高校は一社にある東邦高校美術科に進みました。実技に油絵・日本画・デザイン・彫刻がありまして、その全部を経験して、日本画に絞り込んでいきました。

大学は、恩師から「東京藝大は日本画が盛んで面白い大学。全国から集まってくる芸術家たちのなかで、自分の技術や創造性を磨いてみたら」と勧められました。東京藝大は浪人生が多い大学として有名ですが、私のクラスは、現役で入った人は一人もいなくて、私の2浪は早いほうでした。最高は7浪の人がいて、いろいろな年齢の人たちがい

るところで4年間学べて良かったと思っています。

——影響を受けた方は？

浪人していたとき通っていた河合塾で、両口屋是清のパッケージでご存知の方もいらっしゃるかと思いますが恩師・日本画家の齋正機先生から、いろいろなことを教わりました。なかでも、いまの私の制作スタイルのもとになっているのが、「ものから学ぶ」ことです。これは日本画の世界で昔から言われていることで、私は植物画の作家ですから「植物を良く見て観察して植物から学びましょう」と教わりました。写真を撮って描く方もおられますが、私はすべてスケッチします。

生まれ故郷に似ている流山市にアトリエ

——卒業後に千葉県の流山市でアトリエを開かれたのですか。

大学が上野に校舎があり、主に関東圏が発表場所なので、都内にアクセスが良く、なおかつ自然が豊かな流山市にアトリエを構えました。生まれ育った長久手に環境が似ていたからです。長久手には、畑があり、森のなかで山桜が咲いていて、歩いていて四季を感じられる日本画のモチーフがたくさんありました。

彼岸花や矢車草は流山、椿は東山動植物園でスケッチしました。

名古屋の栄に出て、鉢植えの植物や料亭などの庭のしつらえに、無意識に目が行きます。笑い話ですが、植物を





探しながら歩いているので友人からは「楚里はいつも下ばかり見て歩いている」と言われます。

——常にアンテナを張っていらっしゃるんですね。昨年12月に名古屋の松坂屋で展覧会を開催されました。

松坂屋は2回目の個展でした。小さい頃を思い返しても子供ながらに松坂屋は少しお洒落をして行くところで、御馳走を食べたり屋上で遊んだりした思い出があります。そんなところで有り難いことに2回個展をさせていただきました。

松坂屋は、いつも画廊に来られている美術が好きな方に加えて、今回の個展では同年代の方にも興味をもって来ていただけたと販売員の方に言っていただけたことが印象に残っています。

日本画は床の間に飾るといったイメージが強いのですが、私の作品は日常の中で飾ることを大事にしていますので現代の洋室の多い空間にも合うように、横長にしたり連続させたり、花柄のスカーフやバックのイメージに重なるような作品を意識的に制作しています。

松坂屋の個展のときは、画廊の一部を室内に見立てて、北欧の照明とマガジンラックを置いて、違うアプローチにしました。

——先月から千種区のジルダールギャラリーで個展が開かれています。

6回目になります。今まで描かなかった新しい植物を増

やして、日常を彩るような日本画を描きたいというメッセージがより濃くなった展示にしています。サイズや大きさ、雰囲気など、この大きさなら自分の家に飾れるかなと想像していただきたいと思います。

——画風の特徴をお聞かせください。

作品に描くのは植物だけです。もともと植物が好きで、自分で育てています。

植物は国境や地域を越えて、いろいろな人に興味をもって観ていただけるものだと思います。桜や藤は日本的な植物ですし日本を感じられます。洋花の作品もあります。飾ってもらってこそ作品は価値が出ると思うので、本人が飾りたいと思うような作品、例えば着物の帯だったり洋服の柄だったり、どこかで観たことがあるようなものを日本画の材料で筆を使い描いています。

——どんな植物を育てておられますか。

鉢植えで桜と桃を育てています。絵に描いた朝顔やクレマチスは自分で育てていました。もちろん花屋さんでも購入します。南天も育てています。コチョウランをいただいて、2回咲いてくれました。2回目のコチョウランは3輪しか咲きませんでしたが、咲き方が自然でしたね。

自分で育てていますと、新芽はここから出てくるのだとか、実のつきかたとか、花が開くときに力が必要だとか、いろいろなことが解ってきます。そういうところも観察したいと思って、いまベランダはジャングルのようになっています。





——日本画は絵の具や筆など油絵とは違いますね。

日本画は岩絵具という絵の具をつかいます。粉末で、宝石をそのまま砕いたようなブルーだったり金を叩いて薄くのびした金箔を使います。筆は京都や豊橋、東京で買い、地方によって筆の形が変わるので、用途によって使い分けしています。

下地は金箔や銀箔で、その上に薄い和紙を重ねているのでピカピカしていません。それほど光らないので洋の空間にも合うのが特徴です。絵が壁に溶け込んで、空間に馴染むことをテーマとしています。

また日本画の材料は耐久性があり100年200年ともつので、より長く楽しんでもらえます。

東京、京都にもたくさん画材屋さんがありますが、私は高校のときから(株)森荘パルコ隣の美阜屋で購入しています。

——先生のジャケットの模様はご自分の作品ですか。

コスモスと姫ひまわりです。服のブランド、ミラシオンとのコラボレーションで、男性の服で花柄は珍しいのですが、気に入っています。

絵画でスイッチの切り替え

——ご家族は？

2月に男の子が生まれ3人家族になりました。いままで以上に自分のやっていることに責任を持ち、いい意味で地元名古屋を大事にしていきたいと思っています。

——ご趣味は？

趣味と仕事と一緒にあっていて、描くこと観察することがとても楽しいです。植物ばかりでネタ切れにならないですか？と聞かれますが、新しい品種も出てきていますし、洋花もあり、お茶花もあり、どんどんやりたいことが増えています。

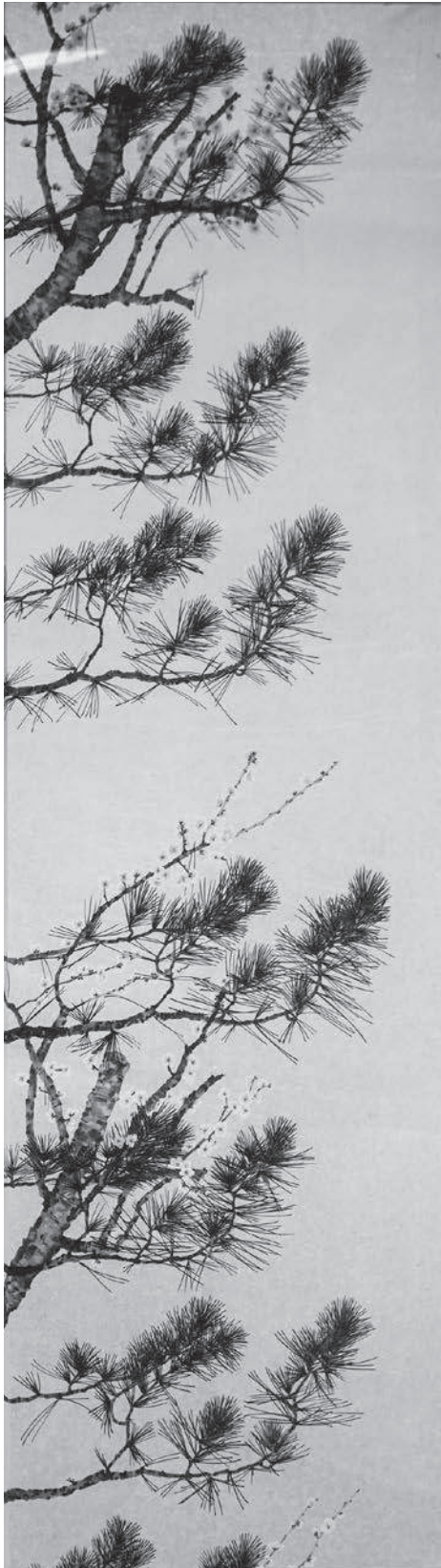
——好きな言葉をお聞かせください。

「^{えが}描く」です。

ジルダールギャラリーでのご縁は、豊根村の町おこしのときでした。温泉街の各旅館にいろいろな作家を呼んだのです。当時私は大学を出たばかりで、自分のベースになっている名古屋にいかに恩返しできるか。東京だけではなく、東京と名古屋を行き来できるように発表の場をいかに増やしていくかを考えていましたので、ジルダールギャラリー、レクサス、松坂屋と増えてきて、とても有り難いです。その中でカトー機械さんでは私の作品を会社で飾っていただいています。社員の皆様のスイッチの切り替えとして効果があれば嬉しいです。茶道では掛け軸を季節のものに掛け替えますが、そういうことは日本人特有の文化だと思います。

——今後の抱負をお聞かせください。

私は多くの人に作品を知ってもらいたいと思っています。そのためのきっかけとして、外への発信を大事にしています。先日、奈良からご家族で車に乗って名古屋の個展に来



てくださった方は、新しく家を建てたので、部屋に飾る絵を探していたら、私の作品をインターネットを通じて知ってくださったそうです。アプローチする方法も時代の流れによって変化していきます。

日本では、ソファや棚の上に作品が飾られることが多いので、HPでは家に飾ったときのイメージがわかるように作品を紹介しています。

発表場所もギャラリーとかデパートなどはもちろん、レクサスのショールームや、海外の方が多く訪れる外資系のホテルでも展示会をやって、自分のオリジナリティーをアピールすることが重要になってくると思います。

私がテーマとしているのは「日常を彩る日本画」です。

四季折々に花の絵を掛け替えたりお気に入りの花の作品を飾ると無気質な空間が華やかになると思います。今のスタイルをより貫いて、より皆様に身近に感じていただける日本画を描き続けていきたいと思っています。

——絵画を購入して資産とされる会社もあるそうですね。服のデザイナーとのコラボ、車のショールームでの展示など、これからも益々幅を広げてご活躍ください。

絆をつくる自分らしさ ～私の挑戦～

日時／平成30年1月25日(木) 18:30～20:00 会場／中日パレス・クラウンホール 講師／女優・コメンテーター いとう まい子氏
MC／ブルデンシャル生命保険ライフプランナー 渡邊 麻由美氏 江戸曲独楽／柳家 三亀司氏



アトムが教えてくれた私の挑戦

愛知県出身の女優「いとうまい子氏」を招いて「絆をつくる自分らしさ ～私の挑戦～」をテーマにして新春記念講演会を開催した。

講師はテレビドラマ・映画の出演から、民放テレビ番組のコメンテーターとしても活躍している。毎週日曜日午後3時からのテレビ愛知「サンデージャーナル」には、レギュラーとして出演中である。

中日パレスのクラウンホールでの講演会は、ライフプランナーの渡邊麻由美氏との対談形式で行われた。

女優業の傍ら早稲田大学大学院に進み、ロコモーションシンドロームに興味を持ち、高齢社会に役立つ健康維持の研究から手掛けた医療・福祉ロボットを開発した。講演ではそのロボットを手に、開発に至った歩みと今後の抱負を聞くことができた。

その後、参加者を交えた「スクワット」の指導が行われ、ステージに上がった小久江元秀署長と岩野司氏（青年部会前部会長）の熱演により、正しいスクワットの動き方を学ぶことができた。

ありのままで生きたい

——昭和57年の「ミスマガジンコンテスト」で初代グランプリを受賞され、アイドル歌手としてデビュー、その後ドラマ・映画俳優の道へと進まれました。

私は三人兄妹の末っ子で、金城学院から大妻女子大学に進み、女優になりたくて中退して芸能界に入りました。

ところが俳優としては見た目が童顔で、20代の頃は大人



江戸曲独楽 柳家 三亀司氏



っぽくしたいとメイクを濃くして髪を伸ばしたり、自分らしくない姿を追い求めてもがいていた気がします。

20代後半になって、兄に頼まれてゴールデンレトリバーのアトムを預かりました。一緒に暮らしていてふと気づきました。

「犬は喋らず、おべっかも言わないけれど、そばにいただけで素晴らしい存在。それに引き換え、私は無理して自分らしさを失っている」と思ったのです。

アトムとの出会いで、これからは無理せずありのままに生きようと感じました。

その事を契機に「伊藤麻衣子」から平仮名の「いとうまい子」という名前に変えました。それが30歳頃でした。私の人生の大きなターニングポイントとなりました。

寝たきりにならないために、 毎日スクワットしましょう

——女優でありながら再び大学を選ばれ、早稲田大学に入られました。

芸能界で25年も過ごすことができたのは、多くの人の支えがあったからです。

少しは恩返ししたいと思ったのですが、私には恩返しできる術がありません。もう一度大学に入って何か恩返しできることを見つけたいと思って、45歳のとき早稲田大学人間科学部健康福祉科に入りました。

いまは博士課程2年で、ロボットを使ってロコモーションシンドロームを予防する研究をしています。

統計によれば老後「男性は9年、女性は12～13年寝たき

り」、10年近くオシメの生活になるそうです。足腰の筋力が低下するからです。

それを予防するためには、日本整形外科学会が推奨している「自宅でするスクワット」と「片足立ち」をすることです。簡単でどこでもできるのですが、あまりされないのが現状です。

そこで私は寝たきりを予防するために、一番筋力を増強できるスクワットに特化した卓上ロボットを作りました。一日3回スクワットを毎日継続的にやることを声で励まして、一緒にやってくれるロコトレ支援ロボットです。

上体を前傾して、5秒かけて（便器に腰掛けるように）座り、5秒かけて立ち上がります。膝が不自由でない方は、一日に15回を分けて毎日続けてください。太ももの筋力を鍛えると、若返りホルモンも分泌されますので、ぜひ皆様続けていただきたいと思います。

——そのロボットを持ってきてくださいましたね。

現在、このロボットはまだ3体しかありません。手作りなので10万円ほどかかるのです。高齢者に貸し出しできるように30体ほどは作りたいと思っていますので、いまは資金集めをしています。皆様のご支援を期待しています。

——会場の皆様よろしく願います。私も今日からスクワットを始めたいと思います。アトムとの絆、大学で若い人たちと一緒に学ばれ、新たな挑戦にスタートされたお姿に感動しました。ありがとうございました。